若手社員の１日

水道機工

プラント事業部 技術部上水技術２課　**長橋 夏実**さん

人々の生活を支える実感

■生活を支える実感

学生時代は水環境保全工学系の研究室で、下水中の微生物などを中心に学んだ。大学で学んだことを仕事で生かしたいという想いから水業界への就職を考えていたという長橋夏実さん。就職活動中にコロナ禍に突入し、二次面接からほとんどオンラインに切り替わった。「大きくは戸惑いませんでしたが、水道機工の対応は素早くて安心しました」と思い返す。創業100年を迎える老舗企業にもかかわらず、社会環境の変化に合わせて対応するフットワークの軽さに好印象を持った。

長橋さんの所属する上水技術2課は水道水づくりの要となる浄水場や、そこに納める設備の設計を中心に扱う。今年度で入社3年目を迎え、浄水設備一式の設計で携わった浄水場が来年4月に運用を開始するなど、自分の業務が人々の生活を支えていることを実感できる機会が一段と増えた。平面の図面を立体的に想像する作業が少し苦手だと話すが、「現場を見に行きイメージしたり、複数の角度から図面を読み込んだりしています」と、自分ができる日々の努力は惜しまない。

■多様な働き方で

プラント設計の仕事は「多種多様」で、地域特性などにより求められるスペックはさまざま。発注仕様書を読み込む際には、納入先のニーズを汲み取りつつ適切な仕様を提案できるように、その後のコミュニケーションまで意識しているという。案件を受注すると、チーム内でキックオフミーティングが開かれ、全体の工程確認やこれまでの引継ぎなどを行う。わからないことがあるときはできるだけその場で質問し、案件の要点や役割を整理する。

1日の流れを聞くと、「フレックスタイム制度やリモートワークと両立できる働き方にとても助けられています」とはにかむ。多様な働き方制度を推進する会社の風土に自分の働き方がマッチ。現在は出社を基本としているが、自分のライフスタイルに合わせてフレックスタイムを使い、就業時間を30分ずらして業務を行うなどワーク・ライフ・バランスのとれた働き方を選択できる環境があるという。

一方、日々の業務に対しては長期的な案件を複数同時並行することが多いため、自分なりのデッドラインを決め、逆算的に取り組むことを徹底。スケジューリングや進捗管理はもともと苦手ではなかったが、先輩の姿を見て真似していくことで、自然と効率的なやり方を確立した。

■仲間とともに社会に貢献

より良いものを目指したいと、時にはベース発注の仕様書に変更や追加の提案をすることも。その際は「相手に伝わる話し方」で根拠をもった提案ができるよう事前に考えを整理する。どうしてもまとまらないときは上司や先輩、部内にいる同期にアドバイスを求めることもある。特に切磋琢磨できる同期の存在は長橋さんの頑張りを後押ししてくれるという。「同期の存在は本当に心強い」と、同期エピソードを楽しそうに語る姿に愛が伝わった。

ほかにも、リフレッシュには「おいしいお酒とご飯」が欠かせない。お酒は〝嗜む程度〟。月に数回ある出張時には仕事終わりにご当地のお酒やご飯を満喫することが楽しみの一つだ。

仕事の魅力を尋ねると「プラントエンジニアリングの仕事内容を一言で説明するのは難しいけれど、実際に設計した設備や浄水場が運用されている様子を見たときは特にやりがいを実感できます」と即答。シンプルな言葉の中に、現在の業務に対する充実感や誇りがうかがえた。

地域特性汲み取り日々創造

図面から納入先のニーズを汲み取る

チームで都度進捗を共有

1日のスケジュール

9:00	社内チャットやメールを確認し1日の業務スケジュールを組み立てる
10:00	設計業務（主に発注仕様書の確認、メーカーとの打ち合わせなど）
12:00	昼食
13:00	キックオフミーティング（部内で案件が始まる際の引継ぎ等を行う場）
15:00	チームミーティングなど（上司と業務の進捗や現状を報告）
17:00	設計業務の続きなど（同時並行している案件の整理、承諾図書の作成など）
17:30	帰宅　※受注の件数により残業が発生する

東京水道

多摩水道技術本部 多摩管路部 あきる野管路管理事業所　**山下 智也**さん

都民の暮らし支えるやりがい

■年々伸びるTWの実績

東京都の政策連携団体である東京水道株式会社（TW）は、東京都水道局と対等なパートナーとして「東京水道グループ」を構成し、給水人口1370万人（令和4年度末）の都民に安全でおいしい水を供給する都の水道事業を支えている。TWは都の水道で事業運営上重要な営業系・技術系業務を1社でほぼすべてカバーしており、「日本最大級の水道トータルサービス会社」となっている。企業の活動範囲は東京都内にとどまらず、国内外の水道事業体の業務にも貢献している。合併により現在の陣容になった令和2年度以降、営業利益、経常利益、当期純利益は年々伸びている。東京都水道局は、今後も同社へ積極的な業務移転を行う方針を示しており、わが国の水道事業におけるTWの今後の位置付けはますます高まる。

山下さんは、ライフラインの関係企業に就職し、広く世の中の役に立つ仕事に就くことを志していた。母校の卒業生は、TWに多数在籍しており、会社訪問の際に先輩から話を聞いたところ、都民の生活を支える責任感とやりがいのある仕事であることを知り、かつ仕事の内容を楽しそうに話し合う先輩たちを目の当たりにして、TWへの志望を決めたという。

■工事にも関わる大切な仕事

入社後は、多摩水道技術本部の多摩管路部で水道管路を布設する工事の設計の仕事を5年間務めた。設計業務では、掘削する道路の面積一つをとっても高い精度での算出が求められる。水道事業は、都民が収めた水道料金で運営している。設計業務で扱う数字は、そのまま工事費に跳ね返ってくる。水道料金を大切に扱う上でも重要な職務だ。山下さんは「大変な責任を担う仕事だが、それだけやりがいがある」と話す。

充実した福利厚生を有効に活用

現場での調整

■住民からの直接の感謝の声も

昨年、山下さんは管路工事の設計部署から施工監理部署に異動した。自分が設計した工事現場で実際に仕事をすることで、視野が広がったという。設計課時代は、上司の施工監理部門との業務の調整に同行し、現場でさまざまなことを教えてもらったことも現在、生きているという。

山下さんの現在の1日の業務は、朝8時半の朝礼で皆が当日の現場作業内容を確認しあうことにはじまり、午前中は事務所での書類確認や前日に管路布設工事があった場合は、水道管の布設状況・延長などの確認を行う。断水を伴う工事は基本的に午後行うため、断水工事の現場立会いを行ったり、工事受注者の書類を事務所で確認したりといった業務を日々行っている。

工事現場では、住民の方から声をかけられる機会は多いという。「工事の目的についてお尋ねいただいたり、感謝のお言葉をいただいたりしたときは、特にやりがいを感じますね」と笑顔を見せる。

■福利厚生も充実

有給休暇は定期的に取得することが奨励されており、取りやすいこともTWの魅力と山下さんは話す。「出身がスキー場のない地域で、また、中学・高校時代はラグビーの部活動に休日も打ち込んでいたので、なかなかスノーボードをやる機会に恵まれませんでした。今は、3連休を作ってみんなでスキー場に行けるので、今年も楽しみにしています」と、間もなく訪れるスノーシーズンを待ちきれない様子だ。

「都民の皆さまを日々支える責任感と誇りとやりがいがある仕事であり、福利厚生も大変充実していることも魅力です」と将来の後輩に向けて山下さんは熱い思いを述べた。

1日のスケジュール

8:30	朝礼
9:00	工事の報告書関係書類の確認 充水作業・閉弁作業 打合せ（水道局・他企業・受注者）
12:00	昼休み
13:00	事務作業 断水作業 打合せ（水道局・他企業・受注者）
17:15	退社

TOKYO WATER　東京水道株式会社
〒163-1337 東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー37階　TEL(03)3343-4560(代)　https://www.tokyowater.co.jp/

Tokyo Waterworks 125th Anniversary SINCE 1898　東京水道グループ　東京都水道局が出資する会社です
おかげさまで東京近代水道125周年